

立命館大学の学生の皆さん

2013 年 2 月 18 日
立命館災害復興支援室
室長 服部健二

台湾・淡江大学 学生交流企画 報告者募集について

後期セメスターの講義も終わり、それぞれに学びと楽しみの時間を送っていることと
思います。さて、わたしたち、立命館災害復興支援室では、2011 年 4 月 22 日の設置以来、
多様な取り組みを実施し、東日本大震災による未曾有の被害に対し、関西・西日本に拠点
を置く総合学園として、適切な支援が展開できるよう、取り組みを重ねて参りました。

さて、このたび、災害復興支援室を窓口として、立命館と縁の深い台湾の淡江大学と共
に、東日本大震災から 2 年を前に、これからのあり方を考えるフォーラムを実施すること
になりました。つきましては、フォーラムでの報告者を公募します。

そもそも台湾は、日本国とは国交がないものの親日の国家であり、今次の大震災に対し
ても約 190 億円という、世界最大の支援をいただいたことで知られています。政治、経済、
文化の背景が複雑に絡むなかで、隣国に暮らし、学ぶ者どうしが、東日本大震災が提起し
たさまざまな問題を考えるとともに、今後の社会を、よりよい未来を展望する機会になる
ことを願っています。

以下に要項を示します。ぜひ、多くの学生が、今、立命館が掲げる「Beyond Borders」
を体現する行動力のもと、気づきと学びにあふれる場の担い手として発表していただくこ
とを期待しています。

記

- 1．主催者：立命館・淡江大学企画実行委員会
- 2．期 間：3 月 6 日（水）又は 7 日（木）出発予定（便の設定により変動）
3 月 9 日（土）台湾を出発予定
- 3．募集人数：約 10 名程度
- 4．条 件：事前オリエンテーションに参加できること。
期限が有効なパスポートを持っていること。（ビザが必要な方は要相談）
日本語か中国語での議論が可能な学生。
性別、国籍、学部等は問いません。
- 5．内 容：3 月 8 日（金）午後に台湾・淡江大学の学生と学生フォーラムを行います。
フォーラムでは報告者（話題提供者）及び参加者として積極的に意見交換を
行って頂きます。参加後、報告集を作成いたしますので、レポート等の提出
を求めます。提出されたレポートは、フォーラムにあわせて開催される講演
等とあわせてウェブサイト等にて公開する予定です。

フォーラムについて（以下は現時点での案。詳細は淡江大学と調整中。）

冒頭、311 で端的に現れた、台湾からのアクションや、それを日本人がどう感じたかをトピックとともに共有します。「なぜ台湾は、日本にそこまでの思いを持っているのか。」多くの日本人にとって感謝の気持ちとともに、改めて芽生えた感情であり、その思いを受け取り、生かしていくことが恩返しなのではないか（日本のネット上でのムーブメント、感謝の新聞広告へのカンパ、台湾で行われたアジアシリーズでの日本人有志の活動等）。以上を下敷きとしながら、テーマごとのディスカッションを行います。なお、ディスカッションテーマ（案）として以下のような内容を想定しています。

- ・ 学生が見た被災地、日本が背負ったもの（日本側のレポート）
- ・ 台湾は震災をどう見たか（台湾視点での 311）
- ・ 危機に際して、私たちができること
- ・ 日本と台湾、相互への想い（イメージ、文化）
- ・ アジア人とは何か。アジア人としての自覚、想い、今を生きる一人として感じる事
- ・ 学生視点で見る日台のネクストステージ

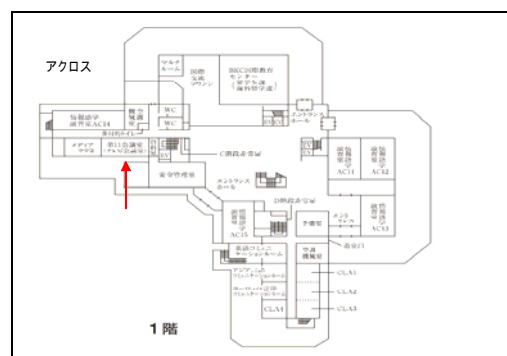
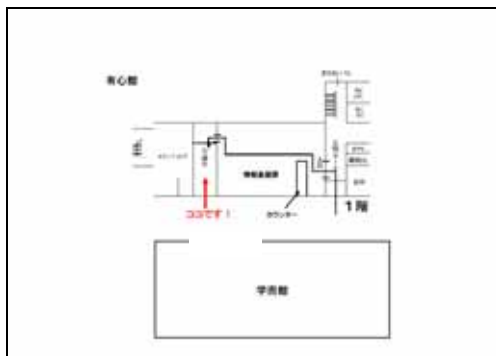
6．費 用：現地での食事など一部の実費を除いて、関西空港から台湾への交通費、現地交通費、現地宿泊費等は立命館大学が負担します。

7．事前オリエンテーションについて：

日 時：2月26日（火）15:00～

場 所：衣笠 有念館 1 階 TV 会議室、BKC アクロス第 11 会議室

地 図：



8．応募締め切り：2月25日（月）正午

別添のエントリーシートに記載の上、応募して下さい。

エントリーシート宛先

立命館大学朱雀キャンパス

災害復興支援室事務局 総合企画課 米倉

junyk@st.ritsumei.ac.jp

以上